



LEHMAN BROTHERS Presents  
Tokyo Symphony Orchestra & Suntory Hall  
Subscription Concert for Children

リーマン・ブラザーズ証券株式会社 特別協賛  
東京交響楽団&サントリーホール  
こども定期演奏会 第21回

2007年9月1日(土)



このコンサートは「サントリーホール エデュケーション プログラム」の  
一環として企画・開催されています。



SUNTORY HALL

リーマン・ブラザーズ証券株式会社 特別協賛

とうきょうこうきょうがくだん  
東京交響楽団&サントリーホール

てい き えん そう かい  
「こども定期演奏会」

おん がく じょうけい  
《音楽の情景》

だい かい だい 21 回 アルプスの峰より、清らかな水

ねん がつ ついたち ど かいえん  
2007年9月1日(土) 11:00 開演

サントリーホール 大ホール

まどみつ もん しらいし し おん てい き えん そう かい きよく へんきよく ながやまよしひろ  
円光門・白石詩音：「こども定期演奏会2007」テーマ曲(編曲：長山善洋)  
Mon Madomitsu, Shion Shiraiishi (arr. Yoshihiro Nagayama): Theme Music of "Subscription Concert for Children"

ヴェルディ：オペラ『アイダ』から 凱旋行進曲  
Giuseppe Verdi: Triumph March, Aida

がっしょう とうきょう がっしょう し き やまがみたけ し  
合唱：東響コーラス 合唱指揮：山神健志

バーンスタイン：『ウエスト・サイド・ストーリー』から「マンボ」  
Leonard Bernstein: Mambo, West Side Story

れんさくこうきょうし そ こく  
スメタナ：連作交響詩『わが祖国』から「モルダウ」  
Bedřich Smetana: Vltava, Má vlast

きゅうけい  
— 休憩 —

J. シュトラウスⅡ：ワルツ『美しく青きドナウ』  
Johann Strauss II: An der schönen, blauen Donau, Walzer, op. 314

R. シュトラウス：アルプス交響曲 から  
Richard Strauss: Eine Alpensinfonie, op. 64, excerpts

たき  
「滝にて」 Am Wasserfall  
げんえい  
「幻影」 Erscheinung  
はな さ そうげん  
「花咲く草原にて」 Auf blumigen Wiesen  
こうげん まき ぼ  
「高原の牧場にて」から Auf der Alm  
ちようじよう  
「頂上」から Auf dem Gipfel  
けいかん  
「景観」 Vision  
きり た のぼ  
「霧が立ち昇る」 Nebel steigen auf  
しゅうけつ  
「終結」から Ausklang  
よる  
「夜」 Nacht

し き おおとも なお と  
指揮&おはなし：大友直人

かんげんがく とうきょうこうきょうがくだん  
管弦楽：東京交響楽団

しゅざい ざいだんほうじん とうきょうこうきょうがくだん  
主催：財団法人 東京交響楽団/サントリーホール

とくべつきょうざん  
特別協賛：LEHMAN BROTHERS

じよせい  
助成：  日本財団  
The Nippon Foundation

こうえん みなとくきょういくいんかい  
後援：港区教育委員会

へいせい ねん ど ぶん か ちよう げいじゆつ そう ぞう かつ どうじゆうてん し えん じぎょう  
平成19年度文化庁芸術創造活動重点支援事業

サントリーホール リニューアル記念公演

(再生紙使用)

ねん てい き えんそうかい  
2007年子ども定期演奏会のはじめに

おおともなおと  
大友直人

「子ども定期演奏会」6年目のシーズ  
ンが始まります。今年は“大自然の情  
景”をテーマに4回の公演をお届けし  
ます。

音楽と自然の間には、非常に密接  
なつながりがあります。多くの偉大な  
作曲家達が、大自然に触発されて、  
さまざまな名作を残してきました。今  
年度は、そのような、作曲家と自然と  
のコラボレーションによって生まれた  
数々の名曲を、みなさんにご紹介して  
いきたいと思います。

第1回目のきょうは、ヨーロッパの  
人々の暮らしのなかで親しまれてきた  
モルダウ川とドナウ川をテーマに作  
られた二つの名作と、近代の大オー  
ケストラの名作を多く残したR. シュ  
トラウスの大作“アルペン・シンフォ  
ニー”からの名場面などを聴いていた  
だきます。

作曲家の心に映った川の流れや大  
自然が、どのような音の世界を作り  
出すのか、楽しみにしててください。

今年度はあわせて、オーケストラ  
で使われているさまざまな楽器を、セ  
クションごとに紹介していきます。第1  
回目は打楽器です。華やかな打楽器  
セクションを駆使したバーンスタイン  
の『ウエスト・サイド・ストーリー』から  
「マンボ」を聴いていただき、打楽器  
の魅力を存分に味わってください。

テーマ曲も新しくなりました。今年  
は、円光門さん、白石詩音さんのテー  
マを、長山善洋さんに編曲して1つ  
していただきました。

今年もこれからみなさんとともに、  
いいコンサートシリーズにしていま  
しょう。



©篠原栄治

おおともなおと  
指揮・おはなし 大友直人

東京交響楽団常任指揮者。1958年  
東京生まれ。桐朋学園大学卒業。小澤  
征爾、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘に  
学ぶ。プレヴィン、バーンスタイン、マルケ  
ヴィチからも指導を受ける。22歳でデビュー  
以来、日本の主要オーケストラの演奏会で  
活躍。日本フィルハーモニー交響楽団正  
指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団  
指揮者をへて、1991年から東京交響楽  
団正指揮者として、自らのプロデュースに  
よる「東京芸術劇場シリーズ」などで人気  
を集めている。また1994年には京都市  
交響楽団首席指揮者となった。2001年に  
は、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモ  
ニー管弦楽団、コロラド交響楽団やインディ  
アナポリス交響楽団に客演したほか、イ  
ギリスの名門、フィルハーモニー管弦楽団  
来日公演の指揮もおこない、いずれも好評  
を得た。現在、京都市交響楽団常任指  
揮者、東京文化会館音楽監督。

■子ども奏者募集

2008年3月1日(土) 第24回子ども定期演奏会で、  
オーケストラメンバーと一緒にステージ上でロッ  
シーニ作曲「ウィリアム・テル」序曲を演奏してい  
ただく小中学生を募集いたします。

□募集パート

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、  
フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、  
ホルン、トランペット、トロンボーン、ティンパニ

□募集人数 各パート若干名

- オーディション日時 12月2日(日) 午前10時より
- オーディション会場 ミューザ川崎4F 練習室
- 応募締切 11月5日(月) 必着
- 応募先 応募用紙に必要事項をご記入の上、  
〒212-8554 川崎市幸区大宮町 1310  
ミューザ川崎5F(財)東京交響楽団  
「子ども奏者募集」係 まで
- その他詳細は、子ども定期演奏会公式ホームページ  
[www.codomoteiki.net](http://www.codomoteiki.net)をご覧ください。

■子ども定期演奏会2008年度シーズン「チラシに  
掲載する絵」募集のお知らせ

2008年度シーズンでチラシに掲載するためのオー  
ケストラをテーマにした「絵」を募集いたします。

- 絵の大きさ 8つ切り画用紙(38cm×27cm)。  
絵の具、色鉛筆などで描いてください。
- 応募締切 10月19日(金) 必着
- 応募先 応募用紙に必要事項をご記入の上、  
絵の裏に貼り付けて下記へご郵送ください。  
〒212-8554 川崎市幸区大宮町 1310  
ミューザ川崎5F(財)東京交響楽団  
「チラシの絵募集」係 まで

■子ども定期演奏会2008年度シーズン

「テーマ曲」募集のお知らせ

2008年度シーズンで演奏する「テーマ曲」を  
募集いたします。詳しくは、公式ホームページ  
[www.codomoteiki.net](http://www.codomoteiki.net)をご覧ください。

■チケット発売インフォメーション

【2008年度シーズン 子ども定期演奏会】先行受付  
2007年12月13日(木)より  
サントリーホールチケットセンター  
03-3584-9999  
TOKYO SYMPHONY チケットセンター  
044-520-1511  
\*電話のみの申込受付となります。10:00～18:00

【チケット一般発売】 12月17日(月)より

料金: 定期会員券 10,000円  
(全席指定、4回セット券)  
\*残席が出た場合は、1回券を3,000円で発売予定

■「大友直人さんへの質問」

「弦楽器奏者への質問」を募集します!

10月公演のプログラムで、指揮者の大友直人さ  
んと、弦楽器の楽団員にインタビューを行います。  
質問のある方は、別紙に記入して、ホールロビー  
に置いてある「お返事回収箱」に入れてください。  
みなさんからの質問をおまちしています!

かんげんがく とうきょうこうきょうがくだん  
**管弦楽 東京交響楽団**

1946年に創立された日本を代表するオーケストラ。長年にわたる優れた音楽活動にたいして、毎日音楽賞や文部大臣賞、音楽之友社賞、京都音楽賞、毎日芸術賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞など数々の賞を受賞。また、多くの海外公演やフランス・オーヴィディス

社からCDが全世界発売されるなど、海外での評価も高い。1978年からこどもたちに音楽の楽しさ、すばらしさを知ってもらうことを目指して『少年少女のための春休み/夏休みコンサート』『オーケストラ名曲館』『名曲の旅』を開き、多くのこどもたちと交流してきた。

ソロ・コンサートマスター  
大谷康子

内田史子  
小川さえ子  
塩谷しずか

コンサートマスター  
高木和弘

野村真澄  
日野 奏  
宮原祐子  
渡辺裕子

ゲストコンサートマスター  
グレブ・ニキティン

ヴィオラ  
西村真紀○  
武生直子○  
安藤史子  
大野順二■

アシスタント・コンサートマスター  
田尻 順  
廣岡克隆

第1ヴァイオリン

枝並千花  
大和田ルース  
小川敦子  
加藤幸子  
木村正貴  
小林亮子  
立岡百合恵  
福留史紘  
藤原 真  
堀内幸子  
宮本 睦  
吉川万理

加護谷直美  
小西応興  
永井聖乃  
松崎里絵  
森 みさ子  
山廣みほ

チェロ

ベアンテ・ポーマン○  
大塚正昭  
川井真由美  
黄原亮司  
謝名元 民  
鷹栖光昭  
馬場隆弘

第2ヴァイオリン

板垣琢哉○  
清水泰明○  
服部亜矢子○  
坂井みどり○  
阿部真弓  
上原末莉

永久名誉指揮者

アルヴィド・ヤンソンス  
上田 仁  
遠山信二

桂冠指揮者

秋山和慶

音楽監督

ユベール・スダーン

常任指揮者

大友直人

正指揮者

飯森範親

コントラバス

笠原勝二○  
渡辺哲郎○  
加藤信吾○  
北村一平  
小林照雄  
久松ちず

上間善之○

甲田幹雄  
大和田浩明  
阪本正彦  
曾根敦子

トランペット

佐藤友紀○  
アントニオ・マルティ○  
大隅雅人  
野沢岳史■  
前田健一郎

フルート

相澤政宏○  
甲藤さち○  
高野成之  
中川 愛

トロンボーン

萩野 昇○  
鳥塚心輔○  
上原規照  
宮本直樹

オーボエ

池田 肇○  
篠崎 隆  
福井貴子

クラリネット

十亀正司○  
エマニュエル・ヌヴェー○  
小林利彰  
近藤千花子

テューバ

渡辺 功○

ティンパニ&パーカッション

奥田昌史○  
新澤義美○  
天野佳和  
塚田吉幸

ファゴット

大埜展男○  
福井 蔵○  
内田秋雄  
千村雅信

榮譽団員

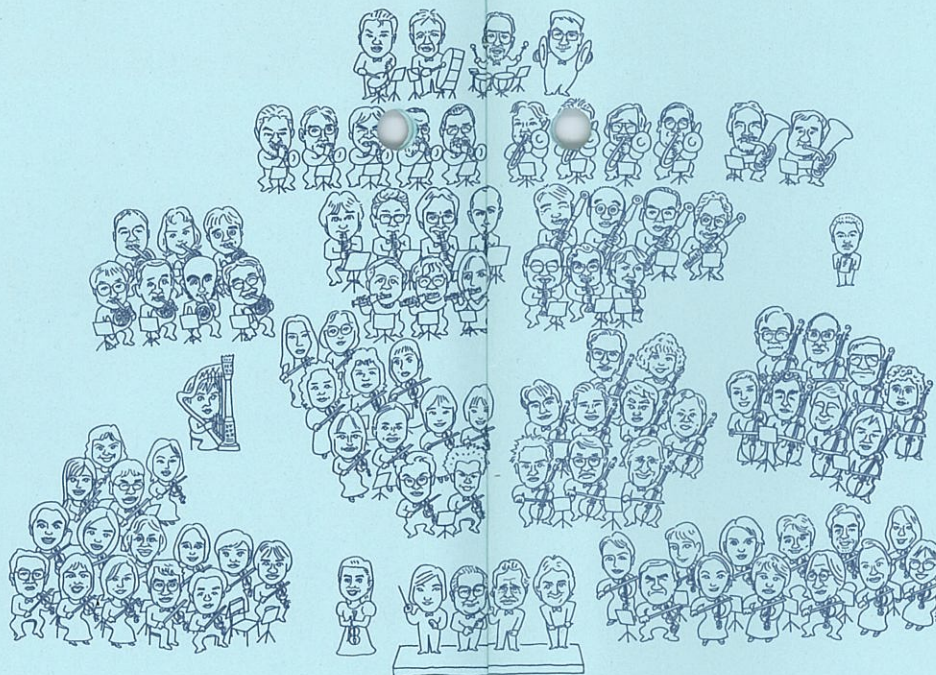
岩澤康裕

ホルン

竹村淳司○  
ジョナサン・ハミル○

○ 首席奏者

■ インスペクター



## プログラム・ノート

ありた さかえ おんがくがく  
**有田 栄 (音楽学)**

### ヴェルディ：オペラ『アイダ』から 凱旋行進曲

ジュゼッペ・ヴェルディ (1813-1901) は、たくさんのオペラを作曲したイタリアの作曲家です。『アイダ』はとくに有名な作品で、世界中の劇場で上演されています。

物語の舞台は、世界で最も長い川であるナイルのほとり、エジプトです。アイダは、エチオピアという国の王女。敵のエジプトにとらえられ、いまはどれいとなっていますが、だれも彼女の本当の身分を知りません。アイダと、エジプトの将軍ラダメスとは恋人どうし。戦いに出かけるラダメスを見送りながら、アイダは、恋人の勝利を願う気持ちと、祖であるエチオピアの勝利を願う気持ちとの間で、心を引きさかれるような思いです。

### 「こども定期演奏会2007」テーマ曲について

田光 門さん(東京都千代田区立富士見小学校3年生)

この曲を作る前から、テーマ曲だから心に残る曲じゃないと、思っですごこ悩みました。今まで作った曲を、色々弾いてみましたが、それらしいものはありませんでした。

でもある日、大友直人さんが激しく体を動かしてかっこよく指揮をしているところを想像したらこの曲が浮かんできました。シーンとした中、右手を振り上げるとトロンボーンがゾウのような音を響かせます。コンサートの始まりです。

心が弾むような、とても元気な曲なので「フェスティバル(音楽がやってくる)」という題にしました。自分の曲がどのように編曲されているか、頭の中の曲のイメージと同じか、ワクワクしています。

白石詩音さん(埼玉県春日部市立粕壁小学校6年生)

私は、埼玉県春日部市立粕壁小学校に通っている小学6年生です。

音楽の勉強をヤマハ音楽教室のジュニア専門コース研究クラスで、飯島明美先生に教えていただいています。作曲は2年生の時から伊佐知子先生にも見ていただいています。

こども定期演奏会には、第1回目からずっと聞きに行っています。毎年演奏されるテーマ曲を聞いて、「私の作った曲もオーケストラで演奏されたらステキだな」と思っていました。だから応募した曲が採用されると連絡をいただいた時は、とてもうれしく、夢のようでした。

テーマ曲に選ばれた曲は、私が3年生の時に作った曲で、初めて見たサーカスのキラキラした感動を曲にしたものです。ピアノで弾いていた曲がオーケストラの楽器でどのように演奏されるのかとてもわくわくしています。

これからも音楽の勉強を続けて、たくさんの人に喜んでもらえる曲を作って、演奏もできるようになりたいです。ありがとうございます。

戦いはエジプトの勝ちでした。聴いていただくのは、勇ましく行進して帰ってくるエジプト軍を、エジプトの王や王女、たくさんの人々が、よろこびの声をあげて出むかえる場面の音楽です。

### 合唱 東響コーラス TOKYO SYMPHONY CHORUS

1987年に発足した東京交響楽団直属の混声合唱団。指導には一流の合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、語学指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションをおこない、常に演奏の質を高めている。バロック音楽から20世紀音楽までを歌い大きく成長している。

### バーンスタイン：『ウエスト・サイド・ストーリー』から「マンボ」

レナード・バーンスタイン(1918-90)は、アメリカの作曲家。指揮者としても有名な人でした。『ウエスト・サイド・ストーリー』の舞台は、大都会ニューヨーク。この町には、世界中からやってきたいろいろな人々が住んでいます。民族も、言葉もまったくちがう人々が集まるわけですから、時にはけんかが起きることもあります。町の二つの不良グループ——白人たちの「ジェッツ」と、カリブ海の島プエルトリコから来た「シャークス」も、いつもいがみあっていました。ジェッツの元リーダーのトニーは、ある日、ダンス・パーティーに出かけ、そこでシャークスのリーダーの妹、マリアと出会います。「マンボ」は、シャークスたちの踊り。不良たちはダンスでもはりあい、今にもけんかが始まりそうです。けれども、恋してしまったトニーとマリアだけは、まわりのことは何も目に入らず、おたがいをみつめあっています…。

### スメタナ：交響詩「わが祖国」から「モルダウ」

ベドジフ・スメタナ(1824-84)は、チェコの作曲家です。そのころチェコは、今のよう独立した国ではなく、となりの国オーストリアに支配されていました。その中で人々は、自分たちの文化にほこりを持つことの大切さを、強く感じるようになります。スメタナは、音楽の方で美しい祖国のすがたを描き、人々の心をはげまそうとしました。

彼は、チェコの自然や、人々が語りつたえてきた物語を題材にして、『わが祖国』という六つの曲を書きました。それらは、絵のように生き生きと自然を描き、詩のように力強く人々の心をつつことから、「交響詩」とよばれます。きょう聴いていただくのは、そのうちの「モルダウ」です。モルダウは、チェコの大きな川の名前で、チェコ語では「ヴァルタヴァ川」と言います。人々は、この川を自分たちの心のふるさとのように思っています。小さな水の流れが、やがて一つの川となります。深い森や広い草原を通り、人々が働

はたけとおなが 流れていきます。夜は、白い月の光のもとで、妖精たちが水あびをしているのが見えます。夜が明けて、きらきらと輝く水面の向こう、高い岩の上には、古い城のすがたも見えてきます。流れはますますはやくなり、ついに大きな川となって、チェコの首都、プラハの町をゆうゆうと流れていくのです…。

## J. シュトラウスⅡ：ワルツ『美しく青きドナウ』

ヨハン・シュトラウス(1825-99)は、オーストリアの作曲家。彼が活躍したウィーンは、「音楽の町」とよばれることがあります。それは、ここに有名なオーケストラがあったり、たくさんの音楽家たちが集まってきたりするからだけではありません。ヨーロッパで二番目に大きな川であるドナウ川、市民がいこうウィーンの森など、町中のいたるところに有名な音楽のふるさとがあるからなのです。

とりわけ、町のまん中を流れるドナウ川は、ウィーンの町のシンボルです。人々は、朝に、晩に、この川をながめ、水の流れるリズムとともに生活しています。そんなウィーンの人々にとって、『美しく青きドナウ』は、まさに生活そのもの、人生そのものといってもよい音楽なのです。

## R. シュトラウス：アルプス交響曲 から

滝にて～幻影～花咲く草原にて～高原の牧場にて～頂上～景観～霧が立ち昇る～終結～夜

リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)は、ドイツの作曲家です。彼は、小さい時からいつも、ホルン奏者だったお父さんと一緒に劇場に行き、指揮者やオーケストラの人たちともなかよしでした。ですから、どの楽器がどんな音を出すか、楽器と楽器を組み合わせるとどんな響きができるか、だれよりもよく知っていたのです。

『アルプス交響曲』は、その彼が、オーケストラの「音の絵の具」を使って、雄大な自然のすがたを生き生きと描いた作品です。中学生くらいのころ、アルプス登山をしたシュトラウスは、自然の美しさとときびしさを体験します。その時のことが彼の心に強く残っていて、この曲のアイデアのもとになったといわれています。

さあ、夜明けとともに山登りに出発です。森の中を、鳥たちの声を聞きながら歩いていくと、その先には、水しぼきをあげる滝が待っています。やがて、羊や牛たちのいる緑の牧場にやってきました。風が、牛たちの首につけたベルの音を運んできます。けわしい道をぐんぐん登っていくと、ついに頂上に到着！すばらしいながめです！ところが山の天気は変わりやすく、みるまに霧がたちこめて、はげしい風になってしまいます。ようやく嵐がおさまると、美しい夕焼けの風景が広がり、やがて静かな夜がやってきます…。

## 音楽の情景

みなさんは夏休みの間、何をしておりましたか。思い出に残っているできごとはありますか。何か特別なことがあった時、すばらしい景色を見た時、忘れないように写真にとっておきたいと思いませんか。楽しいことがあった時、すてきな人と出会った時、その気持ちを日記に書いておこうと思いませんか。音楽家は、それを音楽で描きます。音楽には形がないから、画家のように何かを描くのはむりだよ、ですって？でも、ほんとうにそうでしょうか。

作曲家たちは、チューブに入った絵の具こそ持っていませんが、そのかわり、形のないもの——たとえば、人間の気持ちも描ける「音の絵の具」を持っています。音の絵の具は、もしかすると、画家の使う絵の具よりも多くの色があるかもしれません。もちろん演奏者も、みなひとりひとりの「音の絵の具」を持っています。音楽家たちは、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、そして人間の声を持っている、信じられないくらいたくさんの音色を使って、音楽の絵を描くのです。でも「音の絵の具」は、じつはみなさんも持っているんですよ。音楽を聴きながら、心の中につつまれるものをじっと見つめてみてください。つぎつぎにうつり変わっていく「音の色」を感じてください。写真や、絵や、言葉では表せない、音楽だけが描くことのできる、特別な風景が見えてくるにちがひありません。

きょう聴いていただく音楽の中からも、さまざまな景色が見えてきませんか。『アルプス交響曲』からは、アルプスの高い山のすがすがしい空気が伝わってきます。『モルダウ』や『美しく青きドナウ』の中には、川の流れる美しい森や草原だけでなく、その川とともに生きる人々のくらしが見えてくるようです。自分たちの国、文化、そして命のシンボルとして、川を愛する人々の気持ちや、音楽の中に表われています。また『マンボ』の中には、貧しくても、苦しくても力強く生きる人間の姿と、人間の心が描かれています。目に見えないにくしみや悲しみ、そしてそんな気持ちを生み出した、貧しさや暴力への怒り。音楽には、そうした人間の心の中までも描くことができるのです。

## 「すてきなコンサートをつくるために」

### 第1回 新しくなったサントリーホール

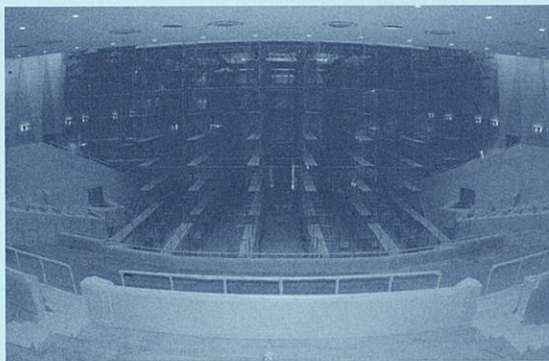
ひとつひとつの演奏会を「すてきなコンサート」にするために、演奏家の人たち、スタッフは、いつも努力、工夫をしています。今年のプログラムでは、それらをテーマごとに紹介していきます。初回は「新しくなったサントリーホール」についてです。

本日9月1日、サントリーホールは、リニューアル・オープンを迎えました。「子ども定期演奏会」会員のみなさんは、新しくなったホールのいちばん最初のお客さまで。

昨年、開館20周年を迎えたサントリーホールは、みなさまにより快適なコンサートの時を過ごしていただくためのリフレッシュ休暇をいただきました。20年分の大そうじをしたり、新しい設備を入れたりする工事をするために、今年4月からつい昨日までお休みしていたのです。いま、みなさんが座っている椅子も綺麗にしました。椅子は、よい響きをつくるためにとても重要なものです。ホールに誰もいない時と満員の時では、響き方が違います。椅子はその違いを考えて作られています。

サントリーホールが誕生したときから、スタッフが毎日、一生懸命磨いたり、修理したりして大切に使ってきました。今回の工事では、ぬをはりかえました。椅子の布の模様をよく見てみてください。なんだかわかりますか？ 実はブドウなのです。この模様は20年前から変わっていません。今回も20年前と同じ、オーストリアのバックハウゼン社にお願いをして同じ素材で織ってもらい、日本で椅子に取り付けました。椅子の中に入っているクッションもと取りかえました。これらはすべて、ホールの響き方が変わらないようにするための工夫です。

他にも新しくなったところがたくさんあります。例えば、大友さんの声をみなさんに届けるマイクやスピーカーも新しくなりました。みなさんもトイレやホワイエなどを見て探してみてくださいね。



工事中の大ホール。椅子を外に運び、やぐらを組んで天井をきれいにしています。



## 打楽器セクション紹介

今年の定期演奏会では、「弦楽器」「管楽器」「打楽器」「声楽」のセクションを、公演ごとに紹介していきます。本日のコンサートでは、打楽器セクションの登場です。楽団員のみなさんに、「オーケストラのなかの打楽器」についてお話いただきました。

【出席】 奥田昌史、新澤義美、天野佳和、塚田吉幸

——オーケストラのなかでの打楽器セクションの性質、役割を紹介してください。

天野 打楽器はオーケストラのなかでも特に目立つセクションです。作曲家が音楽を創り、クライマックスをつくろうとするとき、まず弦楽器、次に木管楽器、金管楽器で盛り上げ、最後に打楽器でガンと頂点にもっていく、という書き方をすることが多いので、われわれは一番のクライマックスにふさわしい音を出せるよう、一丸となって団結します。一番適した音量、音色、音質、バランスを作るには、仲間との「あ、うん」の呼吸が大切。ですから打楽器は、アンサンブルとして一家を成さないで大成しないセクションなのです。

長い間一緒にやっているのとお互いのことはよく分かり合っていますが、仲がよいだけでは成り立たないのがオーケストラです。100人もの演奏家から成るオーケストラの演奏は、いろいろな状況によって瞬時に変化しますから、事前に「こうしよう」と相談して決めておいても、必ずしもその通りにいかないことが多々あります。そういった変化に、臨機応変に対応する感性が大切ですね。

奥田 たしかに打楽器は目立つセクションですが、逆にそれだからこそ、目立たないで終わらせたいと思うこともあります。お客さんが、「あれ、打楽器がいたの？」と思うくらい静かに、オーケストラで支えることができれば理想的だと思ったりもします。

——打楽器を演奏する楽しさ、醍醐味は？

塚田 こども定期演奏会ときは、客席で子どもたちが喜んでくれるのがなにより嬉しいですね。むずかしい曲は本番前に神経質になることも多いのですが、終わったあと、手をたたいて喜んでくれている姿から、音楽の楽しさを教えられることがあります。

天野 作曲家が楽譜に書いた音符には、音楽の響きが込められています。それは無形の、想像の世界なのですが、そこに芸術的価値のある作品だけが、何百年も生き残っているわけです。われわれ演奏家は、その作曲家の意志に少しでも近づきたいと思っ日々努力を重ねています。音楽は正解やゴールがない世界ですが、それを追い求めることが私達にとっての喜びです。それをやりたくてオーケ



左から、塚田、新澤、天野、奥田

ストラで演奏しているのだと思います。

——打楽器はいろいろな種類がありますが、誰がどの楽器を担当するという配分はどのように決めているのですか。

**天野** まずコンサートの曲目が決まったら、セクション4名のなかで出番について話し合い、曲ごとに誰がなんの楽器を担当するか、相談して決めます。やはり一人一人には個性がありますので、それぞれに合った楽器を選び、ベストな編成を組むよう相談するのです。

**新澤** 楽器の配分が決まったら、今度は、その楽器を担当する人が使う楽器を選びます。たとえばティンパニや太鼓なら、本当の皮を張ったものにするか、プラスチックにするか、バチはどのような種類のものを使うか、それぞれの曲の性質、作曲された年代などにあわせて考えます。演奏会当日の天候も関係しますね。すごく湿気の多い日と乾燥した日では違いますし、暖房や冷房、照明にも影響されます。練習と本番でも感覚が違うことが多いので、そのコントロールがとてもむずかしいです。

——今回の曲目でも打楽器の活躍が楽しみです。

**天野** 『アルプス交響曲』も『モルダウ』も、物語を想像しながら聴いていただくと、コンサートが一段と楽しくなると思います。特に『モルダウ』でトライアングルの最初の音が出てくるところは、僕のなかではこういうイメージです。——源流の岩からちよろちよろ水が流れてくる。流れにだんだん勢いがつき、それが石にあたって滴がはじける。そこに光があたって、ぴかっと光った瞬間——そこが最初のトライアングルです。トライアングルは、たたく場所によって音色が違うのをご存知ですか？ “チーン”という音が合うのか、“ジーン”という音色が求められているのか、それぞれの奏者が場面場面で工夫しています。ぜひ打楽器の音色の効果にも注目してみてください。

【こどもたちからの質問にお答えします】

——ティンパニはいつも4台あるのですか？（原田弥央子さん 10歳）

**おくだ** 4台が標準ですが、曲によっては2台、3台のこともありますし、最大で7台並べたこともありますね。

**新澤** ティンパニは、大きさによって、低音域、中間音域、高音域に分かれています。演奏する曲の音域にあわせて、いくつの楽器をどのように組み合わせるのか決めます。

——太鼓を叩くバチは、決まっていますか？

**おくだ** バチは、フェルトや毛糸のもの、木のもの、金属のものなどいろいろあり、どれを選ぶかによって音色が全く違います。だからとても慎重に選びます。たとえば「木のバチを使って」と、作曲家が楽譜に指定している場合もありますが、そうでないときは、そこで表現したい音色のためにどのバチがふさわしいか、それぞれの奏者が工夫して選んでいるのです。

■次回は弦楽器セクションの楽団員にインタビューを行います。質問がある方は、同封の質問用紙にご記入の上、終演後、ホールの「お手紙回収箱」に入れてください。

## 東京交響楽団 打楽器セクション メンバー紹介

- ① 出身地
- ② 趣味
- ③ 今日のプログラムに関してひとこと



おくだまさし  
奥田昌史

- ① 東京都練馬区
- ② 絵画鑑賞

③ 『ウエスト・サイド・ストーリー』の「マンボ」にはティンパニをマラカスで打つ、という特殊奏法があります。（マラカスという楽器は、ヤシ科のマラカの実を乾燥させ、その中に砂などを入れた楽器で、通常2本同時に使用するので、複数形のSが付いてマラカスと言うのですが、割れやすいのでプラスチック製など色々な材質で工夫されています。）私はこの曲に、ドイツニーランドで買ったミッキーのマラカスを使用しています！ 軽いし割れないので快適に演奏できます。



にいざわよしみ  
新澤義美

- ① 東京都武蔵野市
- ② 芝居を見ること サッカー

③ 今日のプログラムの中で、私が小中学生の頃に知っていた曲は、スメタナの「モルダウ」と「美しく青きドナウ」だけでしたが、「モルダウ」の本当に美しく哀愁を帯びたメロディーが私は大好きでした。実際に見たわけでもないのにチェコの風景が目の前に広がるようで、その当時、うっとりして聞いた記憶があります。



あまのよしかず  
天野佳和

- ① 兵庫県神戸市
- ② 落語、演劇などの舞台鑑賞

③ リヒャルト・シュトラウスの「アルプス交響曲」はアルプス登山の様子を描いた曲です。様々な情景を音楽で表現しているため、その音楽の響きから、どんな山なのか、今どのような状況なのか、などを頭の中で想像してみてください。音楽は無形の想像の世界です！



つかだよしゆき  
塚田吉幸

- ① 埼玉県さいたま市
- ② かんたん料理

③ 音楽大学に通っていた頃。ある日、打楽器のグループレッスンがあり、後輩の一人が急に手を挙げて質問しました。「先生、人生の最後に演奏したい曲は何ですか？」と。すると先生は、「モルダウ」です。「モルダウのトライアングルの演奏したい……」と静かに答えました。それ以来、「モルダウ」は、私にとって特別な曲になりました。



にっぽんざいだん  
■日本財団とは

日本財団は、全国の地方自治体が主催する競艇の売上金の2.6%をうけて、海や船に関する活動、文化・教育・社会福祉等に関する活動、海外の活動など、幅広い公益活動に支援（資金援助）を行っています。

「こども定期演奏会」はその一つです。こども定期演奏会は、子どもを対象とした交響楽コンサートで年に4回も定期的に開催されるのが特徴です。子どもたちが自主的に演奏会へ出向く機会として、芸術を支える文化を育もうとする取り組みです。日本財団は、こうした取り組みが広がることを期待して、この演奏会を支援しています。

他にも、例えばこんな事業を支援しています。

■日本音楽集団との協働による小学校邦楽普及プログラム（特）トリトン・アーツ・ネットワーク

5年前に導入された新学習指導要領により、小中学校の音楽の授業で、日本の伝統的な音楽や楽器を知ることが定められました。しかし、学校の先生方に邦楽の経験があるとは限りません。子どもたちが本物の邦楽にふれる機会は少ないのが現状です。

そこで、小学校にプロの邦楽演奏家を派遣して、日本の伝統音楽を伝えるのがこの事業です。一流の演奏家が奏でる邦楽はほとんどの子どもにとって初体験。さらに、実際に楽器を演奏したり、プロと合奏したりもします。

質の高い邦楽にふれ、体験することを通して、子どもたちが日本の伝統文化に対する理解を深めてくれることを願って、この事業を支援しています。

にっぽんざいだん  
日本財団ホームページ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

にっぽんざいだんこうえき  
日本財団公益コミュニティサイト「canpan」 <http://canpan.info/>

どこかに、困っている人がいる限り。日本財団

この地球で生活する人びとが幸せに暮らせるためのさまざまな支援。それが私たち日本財団の活動です。ボランティアや社会福祉、生涯スポーツや芸術の普及、海外協力、海洋環境改善のための研究…。そんな人びとの役に立つための活動を、それが本当に必要かどうかを自らの目で見極めながらサポートしています。  
[www.nippon-foundation.or.jp/](http://www.nippon-foundation.or.jp/)



日本財団は、経費の売上げの3.3%をうけて活動しています。

救いの手になりたい。



# リーマン・ブラザーズ証券株式会社の社会貢献

リーマン・ブラザーズは、企業活動を行う地域の一員として、豊かな社会の実現のために、世界各国でさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

その活動は、「青少年育成」「質の高いヘルスケアの提供」「芸術・文化の振興」という3つの分野に重点が置かれ、ボランティア活動と資金的援助活動を通じて、地域社会に大きく貢献している多くの慈善団体や非営利団体を支援しています。

日本においても、リーマン・ブラザーズは地域が抱えるさまざまな問題を視野に入れ、社員によるボランティア活動や、チャリティイベント、資金援助などを通じて、私達が働く地域社会に貢献し続けています。日本で活躍する多くの慈善団体や非営利団体と協力し合い、地域社会に根差した活動に参加することで、私たちリーマン・ブラザーズの社員は地域が抱えるさまざまな問題を身近に理解し、社会貢献活動への意識を高めています。こうした私たちの活動を通じて、皆さまにリーマン・ブラザーズを知っていただくことができるようになりました。今後も少しでも地域社会とのつながりを深め、貢献していけるよう真剣に取り組んでまいります。

9月から3月にかけて行われる4回のごども定期演奏会のプログラムで、リーマン・ブラザーズの活動の一部を写真でご紹介させていただきたいと思っております。

## チャリティマラソン

難病とたたかっている子どもたちの夢をかなえ、生きる力や病氣と闘う勇気を持ってもらいたいと願い、活動しているメイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンが主催するチャリティマラソンに毎年多くの従業員がランナーとして参加しています。

将来のビジョンを共に描いていくために



リーマン・ブラザーズは  
ごども定期演奏会を支援します

LEHMAN BROTHERS